



(4000円)

特許願

昭和50年11月21日

特許庁長官殿

1. 発明の名称

集成マイカ絶縁部品の製造法

2. 発明者

住所 神奈川県横浜市保土ヶ谷区月見台321番地

氏名 岡 沢 浩 彦

3. 特許出願人

住所 東京都千代田区丸の内2丁目4番1号

名称 株式会社日本マイカ製作所

代表者 岡 沢 浩 彦

代理人

住所

〒105 東京都港区西新橋1丁目2番9号

三井物産館内 電話(591)0261番

(5400) 氏名 金 丸 義 男 外 資 企 業 金丸特許事務所内 (0140) 氏名 朝 内 忠 夫 1.3名

50 139241

明 細 書

1. 発明の名称

集成マイカ絶縁部品の製造法

2. 特許請求の範囲

図細片状に剥離分解して抄造した集成マイカ箔の積層体を細片に切断し、細片を加熱硬化させた後所望の図造型を用いて所望の形の絶縁部品を成形することを特徴とする集成マイカ絶縁部品の製造法。

3. 発明の詳細な説明

この発明は集成マイカ絶縁部品の製造法に関するものである。

生マイカを焼成するかまたは未焼成で化学的、機械的方法で図細片に剥離分解し、水中に均等に分散懸濁させて通常抄紙法によりマイカ箔を製造することは知られており、このようにして作つたマイカ箔に樹脂を含浸させそして加熱硬化して絶縁体として形成される。このような絶縁体は絶縁部品例えば電線用の被覆子片、絶縁陶子板、絶縁ワッシャーとして広く使用されている。

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 52-64639

③ 公開日 昭52.(1977) 5.28

② 特願昭 50-129244

② 出願日 昭50.(1975) 11.21

審査請求 未請求 (全2頁)

庁内整理番号

6790 57

6790 57

⑤ 日本分類

62 C11

62 C5

⑤ Int.Cl²

H01B 3/04

識別
記号

またこのようなマイカ絶縁体を絶縁ワッシャーのような平面状の絶縁部品に形成することはでき、均一な電気的特性をもつ立体形状の絶縁部品に形成することは極めて困難であつた。

そこでこの発明の目的は、マイカ片が均一に分布した所望の形状の絶縁部品を簡単かつ安価に製造する方法を提供することにある。

この目的を達成するため、この発明による方法においては、まず、生マイカを焼成するかまたは未焼成で化学的または機械的方法により剥離分解して図細片にされる。こうして形成したマイカの図細片は水中に分散させて懸濁状にされ、抄造して集成マイカ箔の原料に形成される。その後このマイカ箔に適当な溶媒化性樹脂ワニスを塗布含浸して硬化した集成マイカ箔のプレプレグは適当な手段を用いて細片状に切断されて成形材料が製造される。

この集成マイカ成形材料は常法により所望の電気絶縁部品の型内に入れられ、所望の形状の絶縁部品に成形される。

定を行なつた。

このように、この発明によれば、無電マイカ板または低誘電率マイカ板を単に打ち抜いて成形するのではなく、無電マイカ板を細片に切断し、加圧成形した後所望の型に入れて成形するので、均一な電気的特性をもつ種々の形状の誘電部品を容易に得ることができる。

従つてこの発明による方法は均一の電気的特性をもつ種々の電気絶縁部品を提供できる有用なものである。

以下この発明の実施例について説明する。

無電誘電率マイカ板0.05mm厚×300mm×1000mmの材料に耐し原玉シリコン YH3224(不揮発分60%、一級品)をトルエンで薄らぎ希釈して塗布し、約50℃で3-5分乾燥して、表面抵抗40M(最低)のマイカプリプレグを得た。これを精密製板機所用シユレンダーにて2mm巾×3-5mm²/gに切断した成形材を使つて、成形温度150℃で圧力30kg/cm²でJIS K 6911による曲げ試験片4×10×50mmをつくり、100℃の恒温槽で1時間のポストキュアを行なつた後、測

	実 施 例	シリカ 又は ガラスゼンイ基質
比 重	1.83~1.91	1.87~2.02
曲げ強度kg/cm ²	8.16~9.43	7.5 ~7.6

代理人 朝 内 忠 天
代理人 八 木 田 茂
代理人 浜 野 孝 雄
代理人 森 田 哲 二

5. 添附書類の目録

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 明 細 書 | 1 通 |
| (2) 略 図 | 1 通 |
| (3) 委 任 状 | 1 通 |
| (4) 願 齊 副 本 | 1 通 |

6. 前記以外の発明者、代理人

(1) 発 明 者

(2) 代 理 人

住 所 東京都港区西新橋1丁目2番9号
三井物産館内 金丸特許事務所内

氏 名 朝 内 忠 天

同 所 八 木 田 茂

同 所 浜 野 孝 雄

同 所 森 田 哲 二